

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大分こども発達支援センター にじのいろ		
○保護者評価実施期間	令和7年11月10日		～ 令和7年12月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和7年11月10日		～ 令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・大分こども療育センターがあり、医療との連携も取りやすい環境にある。また、つばさ学園からにじのいろに移行する際には、児童の特性や支援など情報共有しやすい。	・児童の支援で困り感を抱えた際には、他職種による専門性を持った職員と情報共有し、支援を検討している。	・研修や他施設の見学などを通して、にじのいろに繋がられるような支援方法、環境設定などに活かす。また、研修で学んだ内容を支援に活かせるように、学びを積み重ねる。
2	・園庭やプレイルーム、テラスなど体を動かすことができる環境が整っている。また、児童が不安定な状態になった際に、クールダウンできる場所がある。	・児童が楽しく安心して通えるように、様々な活動を提供し、自己選択できるように配慮している。また、遊びを通して社会性や集団でのルールなどを学ぶ機会も確保している。	・日々の活動が固定化されないように、特性に応じた活動内容を児童の状態に応じて提供する。
3	・月1回、行事を開催しており、地域の方々と触れ合う活動を実施している。その際に、消防や警察の車両見学会、演奏会、制作活動などを実施している。	・つばさ、やすらぎ、にじのいろの3つの部署が合同で実施しているため、児童の特性、幅広い年齢層に対応できる活動内容を検討している。また、体験型の活動内容も多く、児童が楽しめる内容になっている。	・行事に保護者の方も参加し、保護者同士の繋がる機会も提供できればと思う。また、法人内で他施設合同で交流できる機会もあればと思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・就労に移行できる事業を実施していない。また、就労に携わった職員がいないため、イメージすることが難しい。	・就労に移行できる施設がないため、就労への移行時期が近づいた際に、受け入れが難しい状況にある。	・移行時期を見据えて、保護者や学校と情報共有しながら移行先を検討する。また、就労のある他施設への見学など情報共有しながら、日々の支援に繋げる。
2	・支援終了後に、子どもたちの変化、支援方法などを振り返る時間が少ない。	・帰りは各自宅まで送迎しているため、その日にあった支援内容を振り返る時間が短い。そのため、翌日に振り返りをする状況にある。	・支援終了後に、情報共有する優先的な内容に関しては職員に周知、検討する。それ以外の内容に関しては、翌日の朝などに情報共有、支援内容の検討などをして支援に繋げる。
3	・行事等で地域の方々と繋がる機会や、研修会で他施設との交流や情報交換はしているが、それ以外の交流は少ない。	・日々の支援に携わりながら、他施設との交流を図る時間の確保が難しい。	・研修等の機会を増やして他施設への見学、情報交換をする。また、地域との繋がりでは、月1回の行事を通して、事業所について知る機会を設ける。

事業所名 大分子ども発達支援センター にじのいる

公表日 令和8年1月8日

利用児童数

18

回収数

12

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	1	1	職員の人数が足りなく個別の活動ができ ないときがある。	ご意見ありがとうございます。児童が不安 定な状態の際に、職員が個別に対応する 場合があり、活動が変更になることが あります。その際は、児童に状況を説明 して、代替の楽しめる活動を提案させて 頂きます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12					
適切 な支 援の 提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	11	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	11	1				
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	11	1				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	10	2				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	2				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	8	3		1		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会 がありますか。	2		2	8		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	10	2				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	12					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	2	1	1	8		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	10	2				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			4	8		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	2		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	2		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	1				
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1				
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12					
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1		1		

事業所名		大分こども発達支援センター にじのいる				公表日	R8年1月8日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・声掛けを行い、安心できる雰囲気作りに取り組んでいる。 ・児童の状態に応じて部屋を分けられるスペースがある。	・利用状況に応じた同線作りを、より意識して行う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		・子どもに合わせて職員が配置されている。 ・各部署と調整し十分な人数で対応している。	・支援に入る職員同士の情報共有をより早く確実にできるよう努める。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・分かりやすい構造化された環境になっている。 ・子どもに分かりやすいよう声掛けや誘導を行っている。 ・子どもたちが遊びを選択しやすいよう環境設定をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・活動中、活動後に片付けや消毒を細目に行っている。 ・制作活動や食事スペースなど活動に合わせた空間を作っている。 ・心地よく過ごせるよう日々の片付けや清掃をしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・子どもが気持ちを落ち着かせられるように状況に応じて、個別スペースへ案内したり、声掛けを工夫するよう意識している。 ・刺激の少ない部屋を使用している。 ・子どもの状態に応じて、支援者とやりとりして部屋を選択している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・活動の最初に振り返りを行い、職員一人一人が共通認識を持って支援に臨んでいる。 ・ミーティングを実施して、情報の打ち合わせ、振り返りをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			・よりよい伝え方や表現を学び信頼関係構築に繋げたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・ミーティングではどんな些細なことでも意見を出しやすい雰囲気がある。 ・ミーティングを実施して、それぞれの意見を把握している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		・外部の視点で見てもらおう仕組みがある。 ・外部からの評価を受けながら業務改善に活かしている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・研修への参加が推奨されている。法人内研修への案内がある。 ・回覧等でも研修を受けた内容を共有できるようにしている。 ・研修委員会を中心として経験年数に応じて研修に参加している。	・実践的な研修内容も増えて欲しい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・支援プログラムが作成、公表され保護者にも共有されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・保護者からの聞き取りを丁寧に行い計画書に反映させている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・ミーティングで支援方針を共有している。 ・意見を出しやすい雰囲気がある。 ・計画作成後も、職員で話し合う場面が設けられている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・計画は確認できる場所にある。 ・ミーティング等で共有し、支援内容を検討している。	・計画に基づいた、日々の支援の紐づけを意識する。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の記録や観察を通して成長を見ている。 ・標準化されたツールはないが、個別支援計画書をもとに日々の行動観察など子どもたちの変化を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたツールの使用も検討したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援内容以外に、将来の就労、移行支援等を踏まえた計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目の意味を理解しながら支援していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員でアイデアを出し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の振り返りををより活用していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動の提案がある。室内遊びだけでなく公園や制作活動など変化がある。 ・季節ごとの活動や児童の状態に応じて活動を組み込んでいる。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人に合わせた支援が行われている。 ・児童の状態や、組み合わせに応じて個別、集団活動を提供している。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ミーティングで情報を共有して、子どもの変化支援方法を検討している。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を簡潔に報告できる場がある。 ・ミーティング時に職員全体で情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎バスの時間により18時までの時間内での打ち合わせ、振り返りの時間をとることが難しい。そのため、翌日に振り返りを行っている。 ・優先的な内容に関しては、支援終了後、職員間で共有、検討している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察や支援者の関わりによる子どもたちの変化を支援後にすぐ記録をつけるよう意識している。 	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に見直し、その内容を職員間で共有している。 	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、生活能力や運動、社会性などの支援を取り入れている。 ・自立支援と日常生活のための活動や創作活動、余暇の提供は適切に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の提供についてはボランティアの受け入れはあるが、地域との交流活動が組み込めていないと感じる。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・活動前に選択しを提示する場面がある。 ・自己選択できる環境と、スタッフとのやりとりできる環境を整えている。 		
関係機関や保護者と	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者が中心に参加している。 	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学校や、相談支援をやりとりしている。 ・他機関との連携を担当者会議、電話連絡等を通じて情報共有している。 	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に担任と直接引き継ぎができています。 ・行事予定などを確認して、安全に迎えに行けるよう調整している。 	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容や成長をまとめて引き継ぐ流れがある。 ・同事業所内に児童発達支援があり、情報共有しやすい場が整っている。 	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・情報を次の事業所へ引き継いでいる。 ・移行支援の際は、今までの変化や成長を関係機関に伝達している。 	

の 連 携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		・必要に応じて助言を得る機会がある。 ・研修等を通じて、日々学びを深めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	5	・公園活動や行事などを通して地域の子どもと関わる場がある。	・地域の他の子どもと活動する機会をさらに増やしたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	・事業所として参画している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・送迎時に子どもの様子を伝えて、情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	・情報提供を行っている。	・ペアレントトレーニング等は実施できていないため、他職種と連携しながら実施を検討していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・利用する際に書面を見ながら説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・面談などを通じて、計画書に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・面談や書面で丁寧に説明し、同意を得た上で支援している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・担当者会議、電話相談で相談に応じている。 ・必要に応じて面談や電話連絡等実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	・実施できていない。	・現段階では行っていないが、保護者同士で交流できる機会を設けられるように検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・何かあった際は、情報共有を迅速に行い子どもや保護者に周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・通信を定期的に発行したり、連絡帳にも記載している。 ・広報委員会を中心に、情報発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報の取扱いに留意し、ファイル等で管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・言葉やジェスチャーなど具体的で分かりやすいやりとりを子どもの特性に応じて対応している。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	・実施できていない。	・今後は地域の方と、交流できる行事を検討していきたい。	
非 常 時 態 度	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・避難訓練等を実施している。 ・危機管理委員会を中心にマニュアルを作成し訓練を実施している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・災害を想定した避難訓練がある。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		・事前に、保護者との面談にて聞き取りを行い、確認している。 ・職員がすぐに把握できるよう情報を保管している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・食物アレルギーのある子どもに対して、飲食時には個別に対応している。 ・食物アレルギーの同意書を作成し、保護者の同意を得ている。 ・必要に応じて医師の指示書を提出してもらっている。	

常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・安全研修や訓練を定期的に行い共通認識で支援している。 ・避難訓練を実施して、様々な想定をして訓練を行っている。 	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する内容を家族へ丁寧に周知している。 ・災害が起きた際に、引き渡しカード、連絡先など情報共有している。 	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットを全職員で共有し対策、再発防止を検討している。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止研修に参加できる環境がある。研修参加を積極的に推奨している。 ・研修後、全体研修で全職員に周知している。 	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・安全上必要な場合のみ、事前説明の上で対応している。 ・利用児の状態に応じて、組織的に判断している。 ・支援計画シートで保護者に説明している。不安定になった際は、環境的な配慮や安心できるものを準備して個別に支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他害や破壊を伴う行動が、行われた際の対応方法を支援者全体で共有する必要がある。